

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

学びの改革支援課

- 中学校理科は文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施しました。（来年度は中学校英語もCBTでの実施を予定しています。）また、IRT（Item Response Theory:項目反応理論）を用いた結果返却を行いました。
- 小学校において、国語の平均正答率が全国と同程度となり、算数・理科の平均正答率が全国をやや下回りました。
- 中学校では、国語・理科の平均正答率が全国と同程度となり、数学の平均正答率が全国を下回りました。

※IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。

1 長野県の実施状況

学校	当日実施学校数（集計対象学校数）	当日実施児童数（小6）・生徒数（中3）
公立小学校	345校（内特別支援学校2校）	15,041人
公立中学校	185校（内特別支援学校3校）	14,333人
公立小・中学校計	530校（内特別支援学校5校）	29,374人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

2 長野県と全国の平均正答数（正答率）・平均IRTスコアの比較（公立）

〔上段〕：平均正答数／設定問題数 〔下段〕：平均正答率 ※中学校理科のみ平均IRTスコアで表示

校種	年度 教科	令和7年度		年度 教科	令和6年度	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.2／14問 66%	9.4／14問 66.8%	国語	9.4／14問 67%	9.5／14問 67.7%
	算数	8.9／16問 56%	9.3／16問 58.0%	算数	10.0／16問 62%	10.1／16問 63.4%
	理科	9.6／17問 56%	9.7／17問 57.1%	理科		
中学校	国語	7.7／14問 55%	7.6／14問 54.3%	国語	8.7／15問 58%	8.7／15問 58.1%
	数学	6.9／15問 46%	7.2／15問 48.3%	数学	8.2／16問 51%	8.4／16問 52.5%
	理科	509	503	理科		

※文部科学省において、平均正答率の微小な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

※IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

3 今回の結果を踏まえた重点的な取組

- 教科の平均正答率等と児童生徒質問調査の結果を、多面的な視点から分析することで、学校づくりの参考となる資料を作成し、市町村（学校組合）教育委員会や各学校が取り組む学校改革への効果的な支援につなげていく。
- 学びの主体は子供自身であることから、学校が子供にとって「楽しい」「行きたくなる」場所であることが求められる。分析結果は、各学校が子供の目線に立って学校の仕組みを見直す契機となるよう提供する。
- 特に、不登校の子供たちが増加している実態と、児童生徒質問調査に回答している子供の実態を分析し、県の目指す楽しい学校づくりに、実際の子供の声として活用していく。

4 今後の予定

- 8月19日 重点対策チーム会議
- 8月下旬 県教委による分析結果（定例教委）
- 9月下旬 県教委による授業改善にかかわる資料提供
- 10月上旬～ 学力向上等にかかわる市町村（学校組合）教育委員会との懇談
- 10月10日 授業改善・充実研修Ⅱ（オンライン）
- 17日